

1. 選んだ本の書誌情報

近藤幹夫『保育の自由』、岩波新書、2018年

2. 目次

はじめに

第一章 子ども・親・保育者の姿を見つめる 1

第二章 保育の理念を考える—いま、求められる子ども観・保育観 19

1 子ども観を豊かにしていくために 21

2 保育観を深めるために 28

3 保育の質の向上と専門性 38

第三章 新制度の開始と待機児童問題 45

1 新制度のおおまかな仕組み 46

2 新制度で待機児童はどうなるか？ 49

3 なかなか増えない認可保育園 53

4 親たちのほんとうの希望とは？

5 待機児童数は、どう変化してきたか 60

第四章 子ども・親・保育者が大事にしたいこと—規制緩和を考える 65

1 規制緩和策による対策でよいのか 66

2 急速にすすむ企業主導型保育 77

3 幼児教育・保育の無償化と待機児童対策 80

4 園庭の確保はあたりまえではないか 84

5 保育の賃金・労働条件の改善—公的財政の拡充が必要 86

6 乳幼児保育施設における事故と保育の専門性 89

第五章 保育所保育指針の改訂内容をどうとらえるか 93

1 新指針の検討経過と全体構成 95

2 保育現場の実情から新指針を自由に議論する—私の基本的立場 96

3 保育の理念、保育の自由 122

第六章 保育を学ぶ—保育の自由を深めるために 125

1 京都の風土を生かして—保育が地域を創る試み 127

2 子ども・人間への深い探求—『まきばのかぜ』と子どもたちの育ち 135

3 九州の私立保育園でうかがう—保育者の真剣さと人間への信頼 147

終章 保育の自由と未来 157

あとがき

3. 著者紹介

1953年 東京都生まれ。

1978年 長野県・山梨県・千葉県で私立保育園保育士を経験

2004年 長野県短期大学幼児教育学科専任講師、同付属幼稚園園長兼務。

2007年 白梅学園短期大学保育科准教授、同大学子ども学部子ども学科教授

2018年 白梅学園大学学長、白梅短期大学学長を併任、現在に至る

著書 『保育とは何か』（岩波新書） 『保育の哲学1・2・3・4』（共著、ななみ書房）
『保育園「改革」のゆくえ』（岩波ブックレット）

4.選定理由

- ① 保育、幼児期教育の当事者の立場からみた保育の諸問題とは何か
- ② 待機児童問題の内容とそれに対する制度はどのようなものか
- ③ 保育の規制緩和によってどのような対策が強いられるのか
- ④ 新しい制度によってどのような保育のかたちがうまれるか
- ⑤ 保育現場の実情をふまえて新指針にはどのような問題があるか
- ⑥ 保育の問題を改善するために行われている地方の様々な制度とはどのようなものがあるか
- ⑦ 保育の未来にはどのようなことが考えられるか
- ⑧ 保育士の労働条件の現状とはどのようなものか
- ⑨ 財政難が保育にどのような影響を及ぼすのか
- ⑩ 子育てをしながら働きやすい環境とは具体的にどのようなものか